

社民党全国連合  
東日本大震災調査団

## 釜石・大船渡に支援物資

### 吉泉 でお衆議院議員を団長に 木村・久保県議も同行

社民党・東日本大震災対策本部(本部長・福島党首の現地対策本部(本部長・吉泉秀男衆院議員)は、全国各地から対策本部に寄せられた多くの救援物資を大型トラックに満載し、10日早朝に花巻市の木村幸弘後援会事務所に着きました。木村事務所において、吉泉現地対策本部長と、県連合・阿部一男代表代行、伊沢幹事長、木村幸弘、久保孝喜県議が合流。吉泉本部長から対策本部としてのこれまで取り組みと現状の報告を受け、吉泉さんを団長に、被災地の釜石、大船渡市に向かいました。一行は、被災を受けた住民の方々に支援物資を届けると同時に、住民や両市長の要望を聴き取りました。

### 釜石市災害対策 本部を訪問

調査団は最初に釜石市の災害対策本部(野田武則市長・本部長を訪問、菅原則夫釜石市議と合流し、避難所となっている「ゾープラザU」の対策本部に救援物資を届けました。

野田本部長は、県内13自治体で、岩手県沿岸市町村復興期成同盟会を立ち上げ、医療態勢や被災生活再建、義援金の上限拡大等14項目の要望書を提出している。また仮設住宅について資材の供給が追いついていない、提供して欲しい。さらに水産業を立て直さないと釜石は雇用が生まれず、水産加工業では被害にあっていない事業者もいるので復興させたい。県立釜石病院は利用機能が低下している、県に支援を要請した



野田市長(左手前)に、吉泉団長が報告

いと、救援対策での疲れも見せず語ってくれました。調査団の久保県議は、岩手県議会が、13日に、国の各庁と全政党に対して要請書を提出する。社民党福島党首とも会うことになっており、現地の要望を伝えます」と述べ、吉泉団長は、野田市長をはじめ職員の方々を激励しました。

### 災を市

大船渡市では救援物資を届けた後、同市所で田明市長と会い、説明を受けました。市長は、ガレキは全に国の支援を要望したい。被災した事業所は、復元が見えてきた。被災者のために市は、地ではないが市内に地を成し、住宅を建設したい」と語りました。一方、避難所にいる住民からは、「い物な」の利を「保って欲しい」と要望がありました。



左端、戸田市長 右端、阿部代行、次に吉泉団長

最後に、陸前高田市では現地の説明を受けました。多くの住民が暮らした市街地がガレキの山に変貌し、行方不明者も多い現状。吉泉衆院議員は、改めて復興のために社民党は国会でがんばります」と語りました。



社民党震災調査団・花巻「木村幸弘事務所」前  
左から、阿部県連合代表代行、木村県議、吉泉衆院議員  
伊沢県連合幹事長、久保県議

# 調査団が見た!被災地



水産事業所・道路はガレキにより不通となっていた(釜石)



市街地に乗り上げられた大型船(釜石)



救援品の衣類を手に笑顔が(釜石・シープラザ)



高田市中心街の「JAビル」もガレキの中に埋もれる



高田市消防署も壊滅状態



大船渡市街地がガレキの山

## 強い余震に不安

花巻

### 市民生活にも影響

#### 社民党震災対策本部で調査

4月7日午後一時三〇分頃に起きた、震度5の強い余震は、市民を不安に陥れると同時に、停電や停電によるJR東北線の電車ストップ等、花巻市内の各所に被害をおこしました。

社民党花巻・東日本震災対策本部(本部長・木村幸弘 県議)は、翌日8日には、本部長の木村県議を中心に、被害状況を調査し、関係者の方々から状況説明を受けました。左の写真以外にも、団地における地割れ、建物被害も出ており、調査を進めることとしています。



石鳥谷中・佐藤副校長から話を聞く木村県議と市議団



体育館の天井パネルが落下



花巻駅地下道が停電する



JR 東北線・花巻空港駅の手前でストップ(8日、11:30撮影)